議会事業評価シート【文教厚生委員会】

１．事業名：ファミリーサポート利用促進事業

２．観点別評価

観　点	評　価	コメント
市民ニーズ	高　・　㊎	子育て家庭を地域で支える事業として一定の必要性がある一方、現時点では利用件数や依頼人数は減少傾向にあるため低い。
成果向上の余地	㊍　・　無	登録会員の声を制度内容や事業の周知方法へ反映することにより成果向上の余地がある。
類似事業の有無	㊍　・　無	一時保育事業、こども誰でも通園制度、妊産婦家庭サポート事業、小学校児童の早朝居場所づくり事業がある。
コスト削減余地	有　・　㊌	事務の効率化は検討できるが、周知や利用促進に必要な経費に削減の余地はない。

３．成果指標に対する評価

評価対象	評　価	コメント
成果指標	現状で適正　・　（変更余地あり）	新規援助会員登録者数を指標にすべきではない。
目標値	現状で適正　・　（変更余地あり）	新規援助会員登録者数を指標にすべきではない。

４．評価及び提言

評　価	おおむね適正である
方向性	拡充する
提　言 （いつ、何を、どうする、成果指標、目標値などを端的に記載）	【提言①】 令和９年度からは、成果指標を見直して、実活動援助会員数、利用世帯数、マッチング率、利用者満足度、再利用率などを指標とし、市民ニーズを把握できるよう改めること。 【提言②】 令和９年度からは、従来の対面による依頼会員の登録手続きに加え、オンライン化を導入することで　対面手続きの手間を軽減し、登録希望者の負担軽減を図るとともに、他の子育て支援事業との連携を深め、利用者の満足度向上を目指すこと。 【提言③】 令和９年度からは、子育て世帯への周知が進み、利用されるよう

	に、SNS などのデジタル媒体を活用した情報発信を強化するとともに、利用者の声を公開することで事業に対する安心感を持ってもらえるよう、効果的な周知と利用促進を図ること。
理　由 （評価の経緯、提言の趣旨、提言理由などを説明）	【提言①に対する理由】 本制度は、子育て家庭を地域で支える事業として一定の必要性があるにもかかわらず、新規援助会員の登録者数は、制度の利用によって得られた本来の成果を正確に測る指標としては適切ではないため、成果指標に設定すべきではない。 【提言②に対する理由】 現在、依頼会員の登録手続きは対面式で実施しており、１回目は依頼内容の確認、２回目はマッチングした援助会員との顔合わせを行っている。依頼内容をオンラインで申請可能にすることで、利用希望者の来庁回数を減らし、利用のハードルを下げることを検討、実施すべきである。また、各子育て支援事業の特性を活かした組み合わせ利用を促進し、利用者の満足度向上を図る必要がある。 【提言③に対する理由】 現時点では SNS を使用した情報発信は行っていないため、子育て世代の多くが利用する SNS を活用するなど、対象世帯に効果的な情報発信を行う必要がある。また、制度に対する不安があると思われるため、利用者の声を見える化することで安心感を持ってもらえるよう広報の在り方を見直す必要がある。

【評価の書き方】
　・おおむね適正である　　・問題がある
【方向性の書き方】
　・拡充する　　・現状維持する　　・合理化する　　・廃止する

議会事業評価シート【文教厚生委員会】

１．事業名：健康づくり推進事業

２．観点別評価

観　点	評　価	コメント
市民ニーズ	㊒　・　低	健康寿命の延伸、生活習慣病予防、自死対策は全市民に関わる重要な課題であり市民ニーズは高い。
成果向上の余地	㊒　・　無	周知方法や成果指標の見直しなどにより成果向上の余地がある。
類似事業の有無	有　・　㊚	―
コスト削減余地	有　・　㊚	市民の健康度が上がることによる健康寿命の延伸は医療費の削減などにも繋がるため、コスト削減をするべきではない。

３．成果指標に対する評価

評価対象	評　価	コメント
成果指標	現状で適正・(変更余地あり)	現行の指標では効果を適切に計ることができない。
目標値	現状で適正・(変更余地あり)	現行の指標では効果を適切に計ることができない。

４．評価及び提言

評　価	おおむね適正である
方向性	拡充する
提　言 （いつ、何を、どうする、成果指標、目標値などを端的に記載）	【提言①】 令和９年度からは、「健康はんだ 21 計画」の健康増進分野の指標を成果指標に反映し、特定検診の受診率や生活習慣、健康マイレージアプリの利用状況など、市民の健康状態や行動内容を評価できる成果指標に見直すこと。 【提言②】 令和９年度からは、健康マイレージアプリや公式 LINE などのデジタル媒体の活用や、地域団体・企業との連携を強化し、健康づくり事業を積極的に周知することで、現在健康な方で健

	康に対して関心が低い市民の意識改革に繋がる環境整備を進めること。
理　由 （評価の経緯、提言の趣旨、提言理由などを説明）	【提言①に対する理由】 現在の評価は参加人数や受講者数などの活動実績が中心であり、市民の健康状態や行動内容など、事業の成果が十分に評価できていない。成果を把握できる指標へ見直して、事業評価が実効性のあるものにする必要がある。 【提言②に対する理由】 健康づくり推進事業は、市民の健康寿命の延伸や生活習慣病予防、医療費の抑制に繋がる重要な事業であり、市民ニーズは高いと考えられる。アプリなどのデジタル媒体を活用した情報発信を充実することで、特に健康への関心が低い層など、より多くの市民が健康づくりに参加できる環境を整える必要がある。

【評価の書き方】
　・おおむね適正である　　・問題がある
【方向性の書き方】
　・拡充する　　・現状維持する　　・合理化する　　・廃止する

議会事業評価シート【文教厚生委員会】

１．事業名：生活困窮者自立支援事業

２．観点別評価

観　点	評　価	コメント
市民ニーズ	㊔　・　低	生活に困窮している市民が抱える複合的な課題に対し、行政が適切に対応することの必要性は高い。
成果向上の余地	㊒　・　無	関係する制度・機関との連携やアウトリーチの拡充など、成果の向上の余地がある。
類似事業の有無	有　・　㊠	―
コスト削減余地	有　・　㊠	生活保護に至る前の早期支援であり、中長期的な扶助費抑制の観点から必要な事業であるため、コスト削減はすべきでない。

３．成果指標に対する評価

評価対象	評　価	コメント
成果指標	現状で適正・(変更余地あり)	新規相談件数を指標にすべきではない。
目標値	現状で適正・(変更余地あり)	新規相談件数を指標にすべきではない。

４．評価及び提言

評　価	おおむね適正である
方向性	拡充する
提　言 （いつ、何を、どうする、成果指標、目標値などを端的に記載）	【提言①】 令和９年度からは、相談件数などの活動指標だけでなく、自立相談支援事業を始めとした各種事業を通して、市民の生活の改善を示した成果指標へ見直すこと。 【提言②】 令和９年度からは、支援を必要とする方々の潜在的なニーズや困窮状態にある方を早期に把握し、アウトリーチ活動を強化するとともに、関係機関との連携強化や地域ネットワークの充実を図り、「くらし＆住まい相談室」などの相談窓口の周知も進めること。

	【提言③】 令和９年度からは、本事業の専用タブレット端末を導入し、動画等を用いた分かりやすい説明による相談者の理解促進と、記録・報告業務の効率化を図ることで、より効果的で効率的な支援体制の構築を目指すこと。 【提言④】 令和９年度からは、支援終了後一定期間にわたる効果検証を実施し、再困窮の防止に努めること。
理　由 （評価の経緯、提言の趣旨、提言理由などを説明）	【提言①に対する理由】 本事業は生活保護に至る前段階で、生活困窮者を支える重要な事業として包括的な相談支援を実施するために取り組んでいる。しかし、現在の相談件数を中心とした評価では、市民生活が改善したかどうかという本来あるべき成果を十分に把握できていない。 【提言②に対する理由】 生活困窮者の背景には就労、障がい、介護、ひきこもりなど複雑で複合的な課題があるため、関係機関や関係団体などと連携し、早期発見、早期支援を進めることが重要である。 【提言③に対する理由】 現在、課に導入されているタブレット端末は１台のみであり、訪問等で持ち出す必要がある場合には十分に活用できない状況にある。そのため、相談支援における視覚的な説明による相談者の理解促進や、職員の記録・報告書作成等の業務効率化を図るため、新たに本事業専用のタブレット端末を導入する必要がある。 【提言④に対する理由】 現在、支援終了後の効果検証を行っていないため、その効果を十分に把握できていない。そのため、支援終了後における一定期間の状況把握や成果検証を実施し、再困窮の防止に繋げる必要がある。

【評価の書き方】

・おおむね適正である　　・問題がある

【方向性の書き方】

・拡充する　　・現状維持する　　・合理化する　　・廃止する